

発達障がいに関する学習会

特定非営利活動法人 発達凸凹サポーターてくてく
〒574-0003 大阪府大東市明美の里町 16-30

助成事業の概要

目的 発達障がいをもつ子どもたちの保護者や支援者に対して専門家（地域での診療経験豊富な小児科医）による無料学習会を開催し、地域全体の支援レベルアップを図る。

時期 1.平成 28 年 9 月 27 日 2.平成 29 年 2 月 20 日

1. 内容 発達障害に関する基礎知識を医師より学ぶ。

小児科医の仕事、成長の評価、発達について、小児科以外の小児専門外来について、気になる子どもの特性、発達障害について、診断について、自閉症スペクトラム、ADHD、学習障害、ライフステージに応じた支援について、療育や基本的指導、医療機関とのかかわりについて

2. 内容 関わる子どもの年齢別グループに分かれて、発達障害の子どもたちに対する具体的な支援方法を医師及び心理士、お互いの保護者から学ぶ。

学習の仕方、コミュニケーションの仕方、身辺自立について、学校や幼稚園とのかかわりについて、各々の成長段階における悩みや不安、子どもへの対応方法について

事業の成果

第一回目の勉強会の参加者は、発達障がい児を

育てている保護者が大半であった。講師が地域で発達障がい児を多く診察されている小児科医の長尾先生であったため、実際の患者の保護者も何名かいらっしやった。終了後、アンケートを回収したところ、「発達障害について知っているつもりであったが、改めて認識した」「子どものすこしやさしい環境を作ってあげたい」という意見など、先生のお話を聞いて改めて感じたことを書いてくださった。しかし、中には「学習障害と知的障害は違うことをはじめて知った」という感想があり、私たち専門家にとっては当たり前であっても、保護者自身はわかっていないことがまだまだあるのだと知ることができた。一般的に保護者は熱心で、いろいろな勉強会に参加され、本も読まれていることが多い。だが、系統的に学んでいるとは言えず、どうしてもご自分のお子さんに関する情報に偏ってしまう。知りたいことだけを知るといった情報の収集の仕方ではなく、今回のような全般的な知識をなじみのある専門家から語ってもらう機会を設けることで参加者のエンパワーメントにつながった。

第二回目は、続けて参加される方も多いと思われたので、子どもの年齢別グループに分かれて座談会形式の勉強会とした。長尾先生および私たち臨床心理士が各グループに順番に回ってお話をうかがった。保護者の方々がそれぞれの悩みを相談でき、当方からも具体的なアドバイスをさせていただいた。参加者からは「ゆっくり話せてよかった」「悩んでいるのは自分だけではないと安心した」という意見が聞かれた。診察時には、なかなかゆっくり先生のお話を聞くことができないが、

ざくばらんにグループトークをすることで、カウンセリングを受けているような効果も得られたのではないかと考える。

こうした勉強会の開催によって保護者の意識が高くなり、子どもたちへの対応がよりよいものに変化することにつながっていくことは大きな成果であった。

■ 成果の広報、公表

利用者向けには、「てくてく通信」、対外的にはホームページおよびフェイスブックページにて広報を行いました。

ホームページ URL

<http://tekuteku.or.jp/>

■ 今後の展開

今回の勉強会を企画して、発達障がいに関する情報はあふれているにもかかわらず、不安や悩みを抱えている保護者や支援者は想像以上に多いと感じた。また、私たち専門家にとっては当たり前のことも、保護者にとっては初耳であることも多く、広く浸透しているとはいえない。発達障がいと一口にいっても、内実はひとくくりにできるものではなく、同じ診断名がついていても、同じ様相を示すとは限らないのが発達障がいである。効果的な支援を行うためには、個別の特性をよく見極めなければならない。私たちは、昨年 5 月より児童発達支援・放課後等デイサービスを開始し、3 歳～高校生までの子どもたちを直接支援する体制は整った。だが、実際に支援できるのは週に 1 回 1 時間程度程度である。日々のお大半の時間を過ごす家庭や学校にこそ、正しい知識と適切な支援方法を身につけてもらうべく、私たち法人は様々な機会を通じて啓発をしていきたいと考えている。